

平成10年2月16日

10年間掘り起こした成果を一堂に！

## 『豊島の遺跡98』開催中

豊島区立郷土資料館（西池袋2-37-4）では、区内の発掘調査で出土した実物資料の初めての展示会「豊島区の遺跡98」を、2月12日から3月1日まで開催している。

豊島区教育委員会では、この10年間に、区内16か所の埋蔵文化財包蔵地のうち、84地点の発掘調査を実施してきた。現在、数千箱にのぼる資料を駆使しながら、この土地に生きていた人々の生活や歴史について研究を進めている。本展示会は、この区内の文化遺産の実物を、初めて公開展示するものである。

今回の展示では、バラエティに富んだ江戸時代の土器・陶磁器を中心に、古くは約二万年前に遡る旧石器時代や、縄文・弥生・平安時代の遺物を含めて、数多くの資料の中から、約260点を展示している。

展示内容は以下のとおり。

### 1. 旧石器時代から平安時代

豊島区南部に広がる雑司が谷遺跡で発掘された旧石器時代の黒燧石製のナイフ型石器、豊島区東部の染井遺跡から発見された縄文時代中期の土器、同じく豊島区東部の駒込一丁目遺跡の弥生式土器などを紹介。発掘調査の結果、この駒込一丁目遺跡あたりの谷は、大変古いもので、豊かな水にめぐまれていたことがわかってきている。様々な人が水を求めてこの谷に集まってきた様子として、都内では初めて発見された、谷底に残された弥生人の足跡の写真も紹介している。

### 2. 巣鴨町の発掘調査～江戸時代～

現在、「おばあちゃんのお宿」として知られている巣鴨の地蔵通り沿いは、江戸時代豊島区の中では最も栄えた町の一つで、その痕跡が、多く地中に残されている。展示では、寺社参詣の手土産だった土製の狐や招き猫などのミニチュア人形や、寛永通宝や一分金といった古銭など、江戸時代の市井の人々の暮らしぶりを窺わせる遺物を紹介している。

### 3. 大名下屋敷の調査～江戸時代～

駒込地区に住んでいた伊勢出身の大名・藤堂家下屋敷跡から発掘された品々を紹介。地鎮のためのまじないに使われたと思われるかわらけや、大名屋敷の女性が使ったと思われる肥前（現佐賀県）産の磁器の化粧道具セットなど、当時の大名の風俗や暮らしの一端を展示している。

#### 4. 植木屋の調査～江戸時代～

17世紀後半、駒込・染井は、植木屋が並ぶ園芸センターを形成し、江戸郊外の行楽地として知られていた。特に、19世紀初頭から幕末にかけては、造り菊が流行し、巣鴨や染井も菊見の客で賑わった。発掘調査の中から、当時、地元では、見物に来る人々に、植木屋としての営業をすると同時に、茶や料理を出したりしていた様子が、少しずつ明らかになってきている。展示では、長さ38cmの船形鉢、高さ31cmの大徳利といった器や、天目茶碗、刷毛目碗の数々を紹介している。

#### 5. 鍋島焼

鍋島焼とは、肥前（現佐賀県）鍋島窯で献上・贈答用に製作された高級磁器である。駒込一丁目遺跡には、将軍綱吉の側室桂林院の庵（従容軒）があり、その付近の発掘調査で、鍋島焼が発見されている。一方で鍋島焼は、駒込の植木屋の住んでいた地区などからも発掘されており、発掘事例から、大名や武士以外にも、鍋島焼が伝わっている可能性が出てきたという。展示では、従容軒付近から発掘された色鍋島の揃いの皿や、植木屋地区で発見された鍋島焼の大皿などを紹介している。

会場には、区内の小学生（大塚台小3年生）も見学を訪れ、旧石器時代の石器をはじめ、江戸時代の古銭や、自分の頭よりも大きい直径45cmの肥前産の大皿といった、本物の遺物の数々に目を見張りながら、自分達の住む街の足元に広がるはるか昔の世界を感じとっていた。

展示期間：2月12日（木）～3月1日（日）

（休館日2月15・16・23）

展示時間：午前9時～午後4時30分

会場：郷土資料館（豊島区西池袋2-37-4 勤労福祉会館7階；池袋駅下車  
徒歩7分）

費用：入場無料

詳細 豊島区立郷土資料館 生涯学習課文化財係